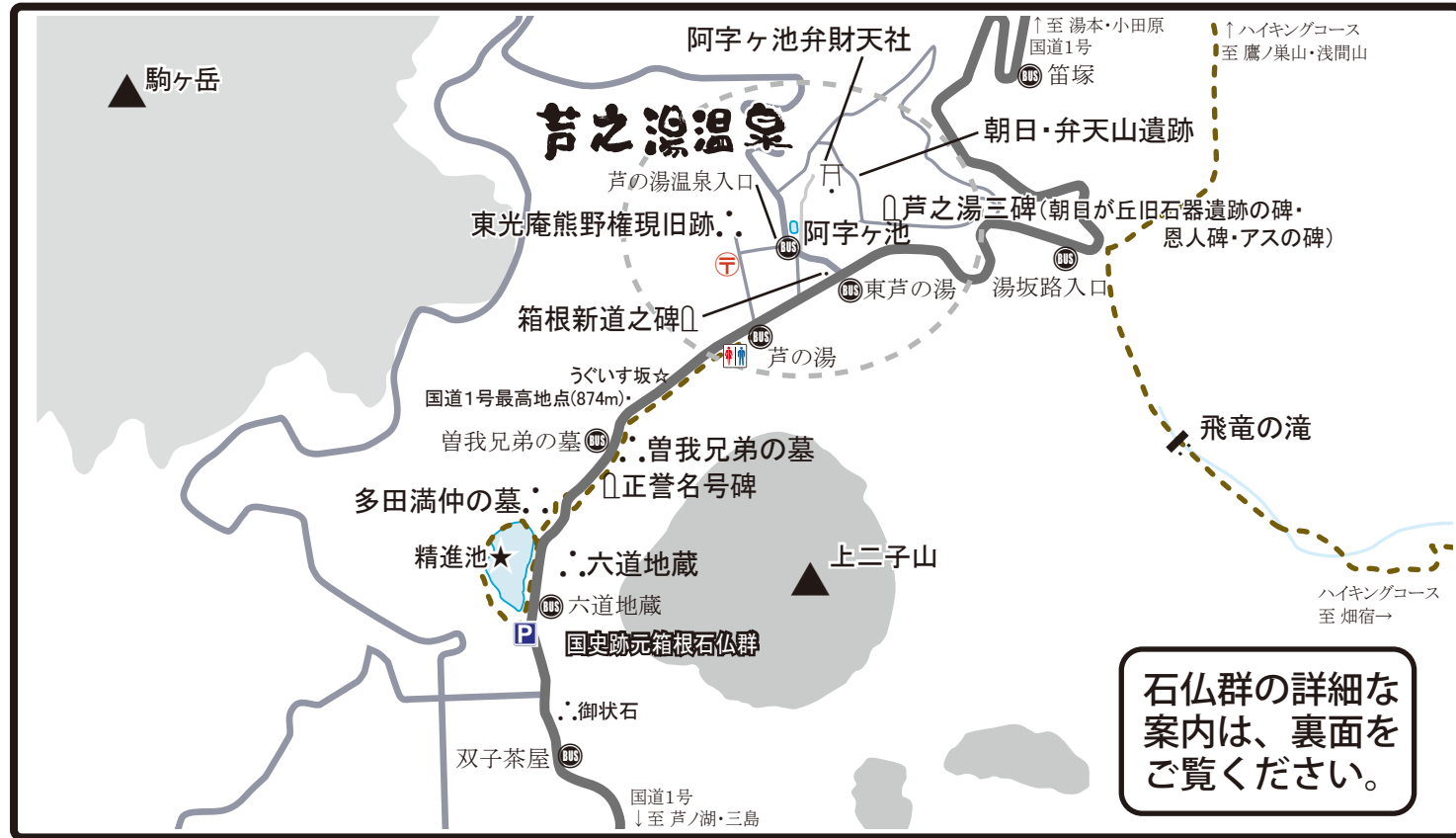


芦之湯・芦ノ湖 歴史散歩 1

「温泉の道」コース 箱根の石仏群～芦之湯温泉



コースの見どころ

熊野神社境内：薬師堂「東光庵」（復元）、
 賀茂真淵長歌碑、蜀山人狂歌碑、芭蕉花上の句碑など
 国道沿い：箱根芦之湯フラワーセンター、箱根新道之碑
 別荘地内：芦之湯三碑（恩人碑、朝日が丘遺跡の碑、アスの碑）、
 松坂屋本店内：香取秀真歌碑、獅子文六文学碑など
 ※碑などは、旅館内にある場合があるので、ご注意ください。

町史跡・東光庵熊野権現旧跡

「箱根七湯図会」の中央奥、芦之湯温泉を見下ろす丘の上に熊野権現（くまのこんげん）と薬師堂（やくしどう）が見えます。境内に建つ薬師堂は「東光庵（とうこうあん）」と呼ばれ、江戸時代後期には、大磯町の鳴立庵（しぎたつあん）とともに、サロンとして盛んに利用されました。

熊野は音読みで「ゆや=湯屋」に通じることから、温泉の神として多くの湯治場で祀られています。また、病を治す仏、薬師如来を祀る薬師堂が建てられました。

芦之湯温泉

芦之湯温泉は、鎌倉時代後期にはすでに温泉が湧いていたことが残された史料から読み取ることができる、とても歴史のある温泉です。

湯治場（とうじば）として発展するのは、江戸時代になってからで、当時芦之湯には6軒の湯宿がありました。それぞれの宿に内湯はなく、湯治客は惣湯（そうゆ）と呼ばれる共同浴場を利用しました。右の図「箱根七湯図会（はこねななゆずえ）」の中央にある背の低い建物（半地下構造になっていました）が惣湯の建物です。また、上の図「七湯の枝折（ななゆのしおり）」は、その内部の様子を描いたものです。

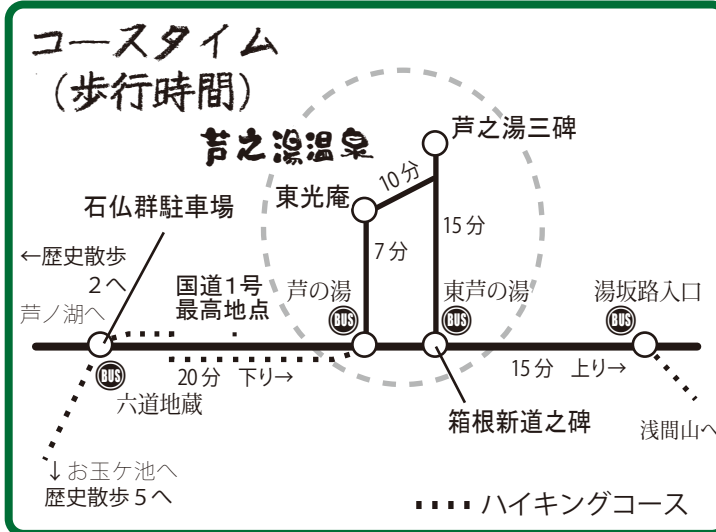


中世箱根越えの道・ 村人が整備した近代の道

芦之湯温泉や元箱根石仏群は、中世の箱根越えの道、湯坂路沿いにあります。芦之湯は、鎌倉時代後期の紀行文「春の深山路（みやまじ）」に、「芦の湖（あしのうみ）の湯とて、温泉もあり」とあり、箱根温泉の中でも特に古くからその存在が知られていました。

江戸時代になると、街道が須雲川沿いの東海道に移りましたが、芦之湯は湯治場（とうじば）として整備されました。現在でも湯治場としての歴史を物語る熊野神社や、当時のサロンである薬師堂「東光庵」（復元）などの見所があります。

明治時代になり、近代化に対応するため、村人の努力により今の国道1号が整備されて車両が通れるようになると、芦之湯は再び箱根の中



の主要道沿いに位置することになりました。

また、石仏群から芦之湯への道は、国道に平行するハイキングコースも整備されていて、初夏にはニシキウツギやヤマボウシ、ノリウツギなどの木々が花を咲かせます。秋には高原の草花を観察しながら歩くこともできます。

村人のつくった国道1号

東芦の湯バス停付近に、「箱根新道之碑」があります。これは、明治時代の芦之湯村の人々が、宮ノ下～芦ノ湖畔の車道（現在の国道1号）を建設したことを記念して建てたものです。道路の建設は、明治35年（1902）に着工し、途中資金に行き詰まったものの、同37年（1904）ようやく開通しました。当初このような経過からこの道は

里道でしたが、その後国道に昇格しました。

また、この道は現在では大学駅伝のコースとしても知られています。芦之湯温泉と箱根の石仏群の間には、国道1号の最高地点（標高874m）があり、この付近は駅伝のまさにヤマ場。往路のランナーは、石仏群を経て標高725mの芦ノ湖畔のゴールまで一気に駆け降りていくのです。